

ろっけんちょうむつみ

六軒丁睦

結成：平成11年秋
受賞歴：梵天丸賞(H19)、
独眼竜政宗賞(H21)、
愛姫賞(H22)、
誉祭連賞(H26.27.28.30.31)
＜海外派遣＞
2008年ヨーロッパ・クロアチアで行われた国際交流フェスティバルに参加

すずめ踊りの活動を通して、祭連結成以前からお囃子という音楽の重要性を実感していました。この思いを実現するためには自分で祭連を立ち上げるしかないと決意し、東北学院大学の音楽サークル出身者でお囃子からスタートしました。大学のキャンパスが仙台市青葉区土樋にあり、昔は南六軒丁と呼ばれていました(その名称は現在でも大学の学園祭で“六軒丁祭”と使われています)。仙台の古い町名を祭連名にしたかったので、祭連名はこれに落ち着きました。その後、六軒丁という名称を残しながら“みんな仲睦まじく”の思いを込めて六軒丁睦としました。最初はもちろん「すずめ踊り」を踊り手が踊りやすい音で演奏することから始め、その後、すずめ踊りの曲に花を添える形で様々なオリジナル曲を増やしていきました。



現在の法被の柄・色は16年前に新しくしたもので、全体の基本色は梅紫色。結成20周年を記念して男子踊り手は藍浅葱色に変え、女踊り・男踊りのコントラストがわかるようにしました。踊り手が白の股引を着用しているのに対してお囃子が紺の股引。これも同じ舞台上にいる踊りとお囃子がわかるように工夫しています。柄の基本は伊達政宗公の水玉の陣羽織。これを軽やかなタッチにして華やかでありながら落ち着きを持たせた梅紫にしました。背中の文字は“粹”の一文字のように見えますが“ろく粹”にしています。これには六軒丁なりの粹を目指すという思いを込めました。



扇子はスカイブルーと明るいオレンジ。暖色と寒色。片面は青空、もう片面はお日様の温かさを表す色にし、両サイドは金色で縁取りしています。法被の色とかぶらないように工夫しました。

私たちは今年で結成から23年になります。毎年のように若く新しいメンバーが睦ファミリーに加わる一方で、一緒に活動していたメンバーが仕事、結婚、出産などでそれぞれ状況が変わり、参加が難しくなるのも事実でした。そこに年齢の問題も重なり、いろいろな場面で若いメンバーとの足並みが揃わなくなる、ということが少なからずありました。でも、すずめ踊りの真髄は子供から大人まで幅広く年齢を超えて楽しめることです。子供には子供らしく、身体機能全開の若人にはフルスロットルで、そしてその上のベテランや壮年の人はゆっくり楽しむ、。これからの六軒丁睦は「もっとすずめを続けたいけど引退せざるを得ないのか、。」という状況をつくらないようにメンバー一人一人の居場所をしっかりと確保し、六軒丁に関わった全てのメンバーが安心して長く続けていける祭連にします。現在のひとつ屋根をさらに大きく、2023年より祭連の名称を「六軒丁睦連」に改名し、次なるステージに向かって行きます！

